

令和3年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
I-2-(1)-② 大学などの教育研究機能の充実	1	④	公立大学法人北九州市立大学運営事業	総務課	公立大学法人の設立団体として、地方独立行政法人法第42条に基づき、業務運営に必要な経費を交付し、法人の業務運営の健全性を確保する。	公立大学法人北九州市立大学評価委員会における各事業年度に係る業務に対する評価	目標	A (計画どおり)	A (計画どおり)	A (毎年度)	2,638,691	2,595,900	2,665,235	13,200	順調	令和3年度に係る公立大学法人北九州市立大学評価委員会の評価結果は、「A（計画どおり）」との評価を得ており「順調」と判断。	順調	【評価理由】 公立大学法人北九州市立大学の評価について、計画どおりとの評価を得ているため「順調」と判断。  【課題】 引き続き、大学の取組を注視していくとともに、効果的な研究活動の支援のため、大学のニーズに応じた支援に務めていく必要がある。	引き続き、公立大学法人北九州市立大学の健全な業務運営と教育研究の高度化、地域への貢献などを支援する。
							実績	A (R1年度)	A (計画どおり)										
							達成率	—	—										
						目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	A (R4年度)										
実績	A (H28年度)	—																	
達成率	—	—																	
I-2-(1)-④ シンクタンクを活用した調査・研究機能の強化	2	④	公立大学法人北九州市立大学運営事業	総務課	北九州市立大学地域戦略研究所での地域研究プロジェクト、受託調査を通じて、地域研究の高度化を推進する。	公立大学法人北九州市立大学評価委員会における各事業年度に係る業務に対する評価	目標	A (計画どおり)	A (計画どおり)	A (毎年度)	2,638,691	2,595,900	2,665,235	13,200	順調	令和3年度に係る公立大学法人北九州市立大学評価委員会の評価結果は、「A（計画どおり）」との評価を得ており「順調」と判断。	順調	【評価理由】 公立大学法人北九州市立大学の評価について、計画どおりとの評価を得ている。 アジア成長研究所においては、コロナ禍にありながらオンラインによるセミナー開催や学会活動等の地域貢献・学術研究活動を推進している。また、研究成果が著名な雑誌に掲載されるなど国内外での評価を受けていることから「順調」と判断。  【課題】 アジア成長研究所においては、「国際水準の知的基盤の強化」を維持しながら市のシンクタンクとしての機能を強化し、「地域への知的貢献」に繋がる活動を引き続き推進していく必要がある。	引き続き、公立大学法人北九州市立大学の健全な業務運営と教育研究の高度化、地域への貢献などを支援する。 アジア成長研究所においては中期計画に基づき、北九州を中心とする地域社会の政策立案への貢献や教育・研究機関及び民間企業との連携強化など地元貢献を重視した日本を代表するアジア研究機関を実現するため、地域への知的貢献と国際水準の知的基盤の強化を目的とした活動を行う。
							実績	A (R1年度)	A (計画どおり)										
							達成率	—	—										
						目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	A (R4年度)										
実績	A (H28年度)	—																	
達成率	—	—																	

令和3年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度			R3年度			中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）		事業 評価	評価の理由
3		④ ⑦ ⑰	（公財）アジア成長研究所補助金	国際政策課	本市がアジアの中核的な産業都市として持続的な成長を実現するため、国際水準の知的基盤の強化と地域への知的貢献を目的とする活動を行う（公財）アジア成長研究所に補助金を交付する。	著名な学術雑誌への論文掲載数	—	目標 5 本	5 本	5 本	5 本 （毎年度）	121,150	140,000	111,400	4,650	順調	著名な学術雑誌への論文掲載数は目標を達成。科学研究費を含む外部資金獲得数については研究員の欠員やコロナ禍にもかかわらず、目標に近い件数を達成した。 このように、地域をテーマとした研究活動と国際水準の研究活動を両立したことから「順調」と判断。		
						科学研究費を含む外部資金獲得数	—	目標 6 件	6 件	5 件	6 件 （毎年度）								
								達成率 100.0 %	100.0 %										
								目標 6 件	6 件	5 件	6 件 （毎年度）								
								実績 5 件	5 件										
								達成率 83.3 %	83.3 %										
I-2-(2)-③	4	④ ⑨	公立大学法人北九州市立大学運営事業	総務課	公立大学法人の設立団体として、地方独立行政法人法第42条に基づき、業務運営に必要な経費を交付し、法人の業務運営の健全性を確保する。	公立大学法人北九州市立大学評価委員会における各事業年度に係る業務に対する評価	A (R1年度)	目標 A (計画どおり)	A (計画どおり)	A (計画どおり)	A (毎年度)	2,638,691	2,595,900	2,665,235	13,200	順調	令和3年度に係る公立大学法人北九州市立大学評価委員会の評価結果は、「A（計画どおり）」との評価を得ており「順調」と判断。	【評価理由】 公立大学法人北九州市立大学の評価について、計画どおりとの評価を得ているため「順調」と判断。  【課題】 引き続き、大学の取組を注視していくとともに、効果的な研究活動の支援のため、大学のニーズに応じた支援に務めていく必要がある。	引き続き、公立大学法人北九州市立大学の健全な業務運営と教育研究の高度化、地域への貢献などを支援する。
						公立大学法人北九州市立大学評価委員会における中期目標期間に係る業務に対する評価	A (H28年度)	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし		A (R4年度)								
								実績 —	—										
								達成率 —	—										

令和3年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																		
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性			
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度		中期 目標	予算額 （千円）		決算額 （千円）	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
II-3-(3)-① 多文化共生社会の実現に向けた体制の構築	5	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生の推進	国際政策課	外国人市民が安心して暮らすことができる多文化共生のまちづくりを推進するため、外国人市民が抱える生活上の諸問題や支援に対するニーズの把握を行う。	市民の「多文化共生」という言葉の認知度  ※中期目標改訂（R4年度目標設定時）	51.8% (H29年度)	目標	53.0 %	54.0 %	62% (R6年度)	42,241	42,065	39,840	3,075	順調	多文化共生ディスカッションの開催など、外国人市民から課題やニーズを積極的にヒアリングする機会を設けていることや、「多文化共生」という言葉の認知度について、目標値を達成していることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 多文化共生社会の実現に向けた体制構築のため、外国人市民が持つ課題やニーズを把握し、そこで得た情報を事業に生かしていること、また、コロナ禍においても対面以外の方法も工夫しながら、適切な相談対応を行っていることから、「順調」と判断。	引き続き外国人市民が安心して住み続けられるよう、外国人市民の課題や現状の把握に努め、改善に向け効果的な事業を実施する。  また、外国人市民への働きかけだけでなく、日本人側の受入体制の強化も促進する。
					実績			60.6 %	59.9 %											
達成率	114.3 %	110.9 %																		
6	④ ⑩ ⑰	多文化共生ワンストップインフォメーションセンター関連事業	国際政策課	外国人市民が安心して生活できるための情報提供や相談に多言語で一元的に対応する「北九州市多文化共生ワンストップインフォメーションセンター」の運営を行う。	外国人市民の生活環境の向上（多文化共生の現状調査で暮らしやすいと回答）	79.7% (H26年度)	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	80%以上 (R6年度)	24,715	24,715	24,715	2,325	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での実施が難しい相談などについても、電話、メールなどで対応しており、目標950件に対し実績1,120件と平時と比較しても遜色ない対応ができていることから、「順調」と判断。	順調	【課題】 新型コロナウイルス感染症に伴う入国制限の緩和により増加が見込まれる外国人市民の現状について、引き続きその把握に務めていく必要がある。		
				実績			—	—												
達成率	—	—																		
II-3-(3)-② 外国人市民の生活環境の充実	7	④ ⑩ ⑰	多文化共生の推進	国際政策課	日本語の不得手な外国人市民へのサポートとして、行政機関や医療機関（健康診査）に通訳ボランティアを派遣するとともに、災害時通訳も含めた通訳スタッフのスキル向上を図る。 また、多言語等でわかりやすい生活情報の提供をすることにより、外国人市民の安全・安心な生活環境の整備を推進する。	外国人市民の生活環境の向上（多文化共生の現状調査で暮らしやすいと回答）	79.7% (H26年度)	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	80%以上 (R6年度)	42,241	42,065	39,840	3,075	順調	新型コロナウイルス感染症の影響下において、対面が難しい場合もできる限り遠隔通訳等の対応を工夫し対応しているため、「順調」と判断。 (行政・医療通訳派遣件数：令和2年度148件→令和3年度191件)	順調	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症の影響により対面が難しい場合においても、電話通訳などで外国人市民の相談対応・通訳などの対応を行っており、外国人市民の生活環境の充実に寄与していると考えられることから、「順調」と判断。  【課題】 相談窓口としての体制を維持するとともに、相談場所としての周知を引き続き実施する。	今後も、(公財)北九州国際交流協会と密に連携し、外国人市民をとりまく環境を幅広くとらえ、安心して住み続けられるよう効果的な支援を行っていく。
					実績			—	—											
達成率	—	—																		

令和3年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施								【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度		中期 目標	予算額 （千円）		決算額 （千円）	事業 評価	評価の理由		局施策 評価
	8	④ ⑩ ⑰	多文化共生ワ ンストップイ ンフォメー ションセン ター関連事業	国際 政策 課	外国人市民が安 心して生活でき るための情報提供 や相談に多言語で 元的に対応する 「北九州市多文化 共生ワストップ インフォメーショ ンセンター」を設 置し運営を行う。	外国人市民の生活 環境の向上 （多文化共生の現 状調査で暮らしや すいと回答）	79.7% (H26年 度)	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	80%以 上 (R6年 度)	24,715	24,715	24,715	2,325	順調	新型コロナウイルス感染症 の影響により、対面での実施 が難しい相談などについて も、電話、メールなどで対応 しており、目標950件に対し 実績1,120件と平時と比較し ても遜色ない対応ができてい ることから、「順調」と判 断。		
Ⅱ-3- (3)-③ 市民の 国際理 解の推 進	9	④ ⑩ ⑰	多文化共生の 推進	国際 政策 課	日本人市民に対 して、多文化共生 に関する意識啓発 や国際交流の機会 や場の提供を行う ことで、外国人を 受け入れる地域づ くりを目指すとし ても、すべての市 民が安心して暮ら し、自己の能力を 発揮できる「多文 化共生先進都市」 としてのまちづく りを推進する。	市民の「多文化共 生」という言葉の 認知度  ※中期目標改訂 (R4年度目標設 定時)	51.8% (H29年 度)	目標 53.0 %	実績 60.6 %	62% (R6年 度)	42,241	42,065	39,840	3,075	順調	外国人市民を対象とした事 業の後援をはじめ、学生への 講義、多文化共生意識醸成番 組の放送を実施するなど、外 国人市民と日本人市民の相互 理解の促進に努めている。 また、「多文化共生」とい う言葉の認知度についても目 標値を達成しているため、 「順調」と判断。	【評価理由】 多文化共生の意識啓発に関 する事業の実施により成果目 標を達成するなど、外国人市 民と日本人市民の相互理解が 促進されていると考えられる ため、「順調」と判断。  【課題】 外国人市民と日本人市民の 相互理解を進めるためには、 地域において顔の見える関係 を築くことが必要であり、そ の構築に向けた取組が課題と なる。	引き続き、(公財)北九州 国際交流協会や国際交流団 体と連携しながら多文化共 生を推進する。
Ⅲ-1- (1)-② 定住促 進や地 域活性 化のた めの環 境づく り	10	③ ⑧ ⑰	定住・移住促 進事業	企画 課	北九州市まち・ ひと・しごと創生 総合戦略に人口減 少対策の重要な柱 の1つとして位置づ ける「定住・移住 の促進」を図るた め、首都圏におけ るPRや「北九州市 版生涯活躍のま ち」の推進等に向 けて取り組むも の。	北九州市への50歳 以上の転入者の増 加数	0人 (H27年 度)	目標 100 人	実績 24 人	448人 (H28~ R2年度)	49,503	50,600	48,186	28,450	大変 順調	20~30歳代の社会動態の増 加数が目標値の3倍以上で あったことから、「大変順 調」と判断。 定住移住促進PRツールつ いては、HPのリニューアルやガ イドブックの作成、小倉駅通 路の壁面装飾などを新たに実 施し、目標値(3件)を上 回った。「北九州ライフセミ ナー」の開催は目標には届か なかったが、20~30歳代の社 会動態の改善に向けて、セミ ナーのゲストに同年代の移住 者や、子育て中の移住者を招 く等、内容を若年層向けに変 更した。 ※社会動態は日本人を対象と した数値目標。令和3年度か ら20~30歳代に目標値を変更 し、令和1年度を当初値とし て令和5年度で450人増加を 目標とする。	【評価理由】 新たな定住移住促進PRツ ールの作成、若年層向けのセ ミナーの開催、20~30歳代に 向けた本市の移住情報の発信 を強化するなど、若い世代に 向けた取組を行った。 令和3年度の20~30歳代の 社会動態は目標値を上回り、 改善傾向にある。 複業・兼業、ワークショップ については目標を達成して いる。新規移住相談者数につ いては目標値には到達してい ないものの、過去最高を記録 した。よって、「順調」と判 断。  【課題】 20~30歳代の社会動態は改 善傾向にあるが、更なる改善 が必要であり、本市が進めて いる事業や本市の魅力の情報 発信を強化し、若い世代から	定住・移住促進に向け て、本市の住みやすさや魅 力などの情報発信、移住相 談体制の充実、受け入れ体 制の強化など、継続的に取 り組む必要がある。 複業・兼業については、 令和6年度に自走化を目指 すため、来年度において企 業・複業人材向けセミ ナー、学生版セミナー、金 融機関ネットワーク等を駆 使して、事業周知を図る。 ワークショップについて は、首都圏在住の若者を対 象に本市のゆかりの人、モ ノ(企業/食材、観光地等) とマッチングする要素を取 り入れた課題解決型のワー クショップを実施し、本市 との関係性の継続化を図 る。
					20歳代~30歳代の 社会動態の増加数	0人 (R1年)	目標 100 人	実績 362 人	450人 (R3~R5 年)	362.0 %								



令和3年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	事業 評価	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度			R3年度				中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）		評価の理由
	13	①	世界遺産集客 にぎわい創造 事業	総務課	旧本事務所見学 バスツアーを実施 するとともに、バ スツアーにおける ガイドの充実を図 る。	バスツアーの参加 者数	64人	目標 180 人 実績 0 人 達成率 0.0 %	160 人 0 人 0.0 %	180人 (R4年 度)	8,569	3,000	500	5,800	遅れ	新型コロナウイルス感染症 の感染拡大防止の観点からバ スツアーを実施できなかった ため「遅れ」と判断。			
IV-3- (1)-② 地域企 業の ニーズ に沿 った人 材育 成・ 確保 の促 進	14	⑤	地元就職促進 に向けた市内 大学助成事業	総務課	大学生の地元就 職の促進等に取り 組む市内大学等 に対して、新たな 助成制度により支 援することで、市 と大学等が連携 して地域と大学 等の活性化に取 り組むもの。	市内大学生の地元 就職者数 ※中期目標改訂 (R4年度目標設 定時)	868人 (R1年 度)	目標 前年度 (868人) 比増 実績 903 人 達成率 104.0 %	前年度比増 集計中	1,200人 (R6年 度)	36,575	50,385	33,342	8,300	順調	令和3年度実績は集計中 であるが、市内大 学生数の地元企 業への就職者数 が目標を上回 る見込みのため 「順調」と判 断。	順調	【評価理由】 令和3年度実績は集計中 であるが、市内大 学生数の地元企 業への就職者数 が目標を上回 る見込みのため 「順調」と判 断。 【課題】 引き続き、市内大 学等と連携を 進め、市内大 学生等の地 元企業への 就職を促 進してい く。	引き続き、市内大 学等と 連携を 進め、 市内大 学生 等の 地 元 企 業 へ の 就 職 を 促 進 し て い く と と も に、 大 学 の ニ ーズ に 応 じ た 支 援 に 務 め て い く。
IV-4- (1)-① 北九州 の魅 力づ くり	15	⑧ ⑩	北九州市魅力 発信事業	企画課	市民自らがまち の魅力を発信す るウェブサイト 「北九州市 時 と風の博物館」 を通じて、本市 の魅力を発掘・ 再発見し、さら に情報の共有 や補足等を行う ことで、地域資 源を磨きあげ、 効果的な情報 発信を展開す る。	本市への愛着があ ると答えた（肯定 的な回答をした） 市民の割合	79.3% (H25年 度)	目標 90.0 % 実績 83.8 % 達成率 93.1 %	90.0 % 83.1 % 92.3 %	90.0% (R6年 度)	2,140	4,690	2,397	8,700	順調	成果指標の「本市への愛着 がある」と答えた市民の割合 は、前年度の実績に比べてわ ずかながら減少したが、「本 市が好きだ」と答えた市民の 割合は、前年度の実績に比べ 上昇した。 両指標とも目標値に達する ことはできなかったものの成 果指標の達成率は90%以上と 高い水準を推移していること から、おおむね「順調」と判 断。	順調	【評価理由】 戦略的なシティプロモ ーションの展開のために、市民 自らがまちの魅力を発信する 北九州市魅力発信事業での 「北九州市 時と風の博物 館」において、一定の成果を 収めているため「順調」と判 断。 【課題】 若い世代を含めた幅広い世 代を広く巻き込むことで、多 くの市民が本サイトを通じて 市の魅力を感じるような戦略 的なシティプロモーションを 図る。 また、コロナ禍の影響に よる「地方回帰」の流れが 活かすためにも、首都圏や 福岡市、若者世代をター ゲットに、引き続き効果的 なシティプロモーションを 図る。	「北九州市が好き」「北 九州市が誇り」「北九州市 と関わりたい」と思い、市 民や市出身者が自ら北九州 市の魅力を発信していく輪 を広げ、北九州市への愛 着・自信・誇りを高めてい くために、 (1) ウェブサイト「北九州 市 時と風の博物館」を通 じて、特に若い世代に対し て、シビックプライドの向 上や地域情報の効果的な浸 透を図る。 (2) 「北九州市応援団」へ の戦略的な情報発信等を通 じて、本市の魅力を市内外 で共有し、ロコミなどを活 用したシティプロモーション を図る。

令和3年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																		
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度				R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度		R3年度		中期 目標		決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価		評価の理由	局施策 評価
IV-4-(2)-① 戦略的なシ ティプロモ ーションの展開	16	⑧	北九州市魅力 発信事業	企画 課	市民自らがまち の魅力を発信する ウェブサイト「北 九州市 時と風の 博物館」を通じ て、本市の魅力を 発掘・再発見し、 さらに情報の共有 や補足等を行うこ とで、地域資源を 磨きあげ、効果的 な情報発信を展開 する。	本市への愛着があ ると答えた（肯定 的な回答をした） 市民の割合	目標	90.0 %	90.0 %	90.0% (R6年 度)	2,140	4,690	2,397	8,700	順調	成果指標の「本市への愛着 がある」と答えた市民の割合 は、前年度の実績に比べてわ ずかながら減少したが、「本 市が好きだ」と答えた市民の 割合は、前年度の実績に比べ 上昇した。 両指標とも目標値に達する ことはできなかったものの成 果指標の達成率は90%以上と 高い水準を推移していること から、おおむね「順調」と判 断。	順調	【評価理由】 戦略的なシティプロモ ーションの展開のために、市民 自らがまちの魅力を発信する 北九州市魅力発信事業での 「北九州市 時と風の博物 館」において、一定の成果を 収めているため「順調」と判 断。  【課題】 若い世代を含めた幅広い世 代を広く巻き込むことで、多 くの市民が本サイトを通じて 市の魅力を感じるような戦略 的なシティプロモーションを 引き続き展開していく必要が ある。	市として、戦略的なシ ティプロモーションを展開 していくために、 (1) ウェブサイト「北九州 市 時と風の博物館」を通 じて、特に若い世代に対し て、シビックプライドの向 上や地域情報の効果的な浸 透を図る。 (2) 「北九州市応援団」へ の戦略的な情報発信等を通 じて、本市の魅力を市内外 で共有し、ロコミなどを活 用したシティプロモーション を図る。 また、コロナ禍の影響に よる「地方回帰」の流れを 活かすためにも、首都圏や 福岡市、若者世代をター ゲットに、引き続き効果的 なシティプロモーションを 図る。	
							実績	79.3% (H25年 度)	83.8 %											83.1 %
							達成率	93.1 %	92.3 %											
						本市が好きだと答 えた（肯定的な回 答をした）市民の 割合	目標	90.0 %	90.0 %	90.0% (R6年 度)										
							実績	78.5% (H25年 度)	86.2 %											87.2 %
							達成率	95.8 %	96.9 %											
IV-4-(2)-② 北九州 を応援する 人のネット ワークによる 情報 発信	17	⑧	北九州市魅力 発信事業	企画 課	市民自らがまち の魅力を発信する ウェブサイト「北 九州市 時と風の 博物館」を通じ て、本市の魅力を 発掘・再発見し、 さらに情報の共有 や補足等を行うこ とで、地域資源を 磨きあげ、効果的 な情報発信を展開 する。	本市が好きだと答 えた（肯定的な回 答をした）市民の 割合	目標	90.0 %	90.0 %	90.0% (R6年 度)	2,140	4,690	2,397	8,700	順調	成果指標の「北九州市の魅 力をいくつ伝えることができ ますか」と答えた市民の割合 は前年度の実績に比べてわず かながら減少したが、「本市 への誇りや自信がある」と答 えた市民の割合は現状維持、 「本市が好きだ」と答えた市 民の割合は前年度の実績に比 べ上昇した。 各指標とも目標値に達する ことはできなかったものの成 果指標の達成率は70%以上で 推移していることから、おお むね「順調」と判断。	順調	【評価理由】 各事業において、おおむね 目標値を達成しているため、 総合的に「順調」と判断。  【課題】 各事業において、おおむね 目標値は達成しているもの の、支援者の本市への興味・ 関心の持続・深化を図るとと もに、本市への愛着や誇りを 共有してもらえらるような取 組を行っていく必要がある。 また、既存の支援制度の枠 組みにとらわれず、支援者が 選択できるような仕組みで あったり、一定以上の支援を してくれた方に対するインセ ンティブなども検討し、さら なる本市の魅力発信に取り組 んでいく必要がある。	「北九州市が好き」「北 九州市が誇り」「北九州市 と関わりたい」と思い、市 民や市出身者が自ら北九州 市の魅力を発信していく輪 を広げ、北九州市への愛 着・自信・誇りを高めてい くために、 (1) ウェブサイト「北九州 市 時と風の博物館」を通 じて、特に若い世代に対し て、シビックプライドの向 上や地域情報の効果的な浸 透を図る。 (2) 「北九州市応援団」へ の戦略的な情報発信等を通 じて、本市の魅力を市内外 で共有し、ロコミなどを活 用したシティプロモーション を図る。 また、コロナ禍の影響に よる「地方回帰」の流れを 活かすためにも、首都圏や 福岡市、若者世代をター ゲットに、引き続き効果的 なシティプロモーションを 図る。 首都圏応援ネットワーク 拡大事業については、新規 サポーターの獲得を進める とともに、興味・関心の深 化・持続を図るため、本市 の魅力を発信するイベント における体験や情報を提供 していく。 ふるさと寄附金について	
							実績	78.5% (H25年 度)	86.2 %											87.2 %
							達成率	95.8 %	96.9 %											
						本市への誇りや自 信があると答えた （肯定的な回答を した）市民の割合	目標	75.0 %	75.0 %	80.0% (R6年 度)										
							実績	56.7% (H25年 度)	55.2 %											55.2 %
							達成率	73.6 %	73.6 %											
						市外からの来訪者 に対し、「北九州 市の魅力をいくつ 伝えることができ ますか」との質問 に対し、「1つ」 以上あると答えた 市民の割合	目標	95.0 %	95.0 %	95.0% (R6年 度)										
							実績	83.2% (H23年 度)	88.3 %											87.1 %
							達成率	92.9 %	91.7 %											

令和3年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善																							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性																
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題														
18	⑧ ⑩		首都圏応援 ネットワーク 拡大事業	東京 事務所	首都圏において 新たなネットワー ク構築のために、 サポーターの組織 化を進める。さら に北九州市ゆかり の店舗等のネット ワーク構築によ り、民間と連携し た情報発信拠点の 拡大を図る。 これにより、首 都圏での北九州市 の認知度向上や北 九州ファン層の拡 大、人・店舗・企 業のつながりを作 る。	KitaQサポーター 登録者数  ※中期目標改訂 (R4年度目標設 定時)	目標	2,500 人	2,700 人	登録者 数計 3,100人 (R5年 度)	3,624	4,500	3,724	4,900	順調	KitaQサポーターの登録人 数について、目標値に達した ため、「順調」と判断。			は、引き続き魅力ある返礼 品を開発し、寄附金額の増 加を図る。														
							実績	2,032人 (R1年 度)	2,375 人											2,961 人	達成率	95.0 %	109.7 %										
19	③ ④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑪ ⑰		ふるさと寄附 金促進事業	企画 課	「ふるさと北九 州市応援寄附金」 についてPRし、寄 附件数及び寄附金 額の増加を図る。 また、寄附金の 使い道を寄附者が 選択できる仕組み と一定額以上の寄 附者に対する地元 特産品等の贈呈を 通じ、本市の魅力 を全国に発信す る。	寄附件数	目標	前年度 (26,438 件) 比増	前年度比増	—	586,411	720,000	885,845	21,450	大変 順調	平成30年度に強化した取組 内容（返礼品の調達方法の見 直しや様々なPR媒体の活用） を継続し、令和3年度は更なる 寄附額増加を目的に、以下の 戦略的な取組を実施した。 ①新システム導入により返 礼品提供業者の負担軽減を図 り、複数の寄附受付サイトへ 返礼品を搭載。 ②既存返礼品の写真の撮り 直しなど、返礼品の磨き上げ を実施。 ③国内最大級のふるさと納 税総合サイト「ふるさとチョ イス」の表彰イベントに初め てエントリーし、大賞を受 賞。（本市返礼品への注目度 が向上） 以上のことから、寄附件数 や寄附金額が大幅に増加した ため、「大変順調」と判断。																	
							実績	46件 (H24年 度)	64,616 件											96,953 件	達成率	244.4 %	150.0 %										
							目標	前年度 (49,816万 円) 比増	前年度比増											—													
							実績	約450万 円 (H24年 度)	112,654 万円																								



令和3年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度				R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度		R3年度		中期 目標		決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価		評価の理由	局施策 評価
IV-4-(2)-③ 都市イメージの向上	20	⑧ ⑪	情報発信・取材協力事業	企画課	本市の認知度と都市イメージの向上を図るため、新聞、雑誌、テレビ、インターネット等のマスメディアを通じた本市のPRに取り組む。	北九州市の認知度（地域ブランド調査によるもの）	目標	10	位以内	10位以内	10位以内（毎年度）	18,686	19,814	19,025	20,950	やや遅れ	地方創生の都市ブランド「New U」の発表を皮切りに、若者の起業支援や、働き方の多様化に沿った施策など、ウィズコロナを見据えた取組に関する広報を加速したことから雑誌・新聞等の掲載件数が令和2年度24件から令和3年度33件に増加した。一方で、地域ブランド調査において、「認知度」「情報接触度」ともに目標順位を達成できなかったため「やや遅れ」と判断。	やや遅れ	【評価理由】 令和3年7月に地方創生の都市ブランド「New U」の発表により掲載件数は大きく増加し、市の魅力発信に寄与したが、都市ブランド調査結果から「やや遅れ」と判断。  【課題】 地域ブランド調査において、情報接触度が順位を落としていることから、ターゲットを見極めながらWebメディアでの積極的な情報の発信など、目に触れる機会の創出が求められる。	雑誌や新聞を活用した広報を継続しつつ、近年需要が高まっているWebメディアなども活用し、タイムリーで戦略的な情報発信力の向上を図る。
							実績	19	位	17										
V-3-(2)-② 公共施設の転活用などの検討	21	⑧ ⑨ ⑪ ⑫	公共施設マネジメント推進事業	都市マネジメント課	「公共施設マネジメント実行計画」に基づき、公共施設に関する将来的な財政負担を軽減するための取り組みを進める。	公共施設保有量の縮減	目標	—	—	—	約20%削減（R37年度）	1,943	8,256	0	61,500	順調	「北九州市公共施設マネジメント実行計画」の着実な推進を図るため、「公共施設マネジメント5ヶ年行動計画」に基づき、PDCAサイクルで評価・見直しを行い、概ね計画どおり実施したため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 公共施設マネジメントの取組は予定通り進んでいることから、「順調」と判断。  【課題】 課題の進捗状況を的確に把握し、評価を行いながら進めていくなどの実効性の確保が必要。 計画の推進にあたって、市民説明や市民意見の把握に努めるほか、関係各所との調整など、丁寧な取組を進める必要がある。	計画の推進にあたっては、令和4年度からの「公共施設マネジメント4ヶ年行動計画」により進捗状況の的確な把握及び評価を行い、公共施設マネジメントの取組を継続的に進めていく。
							実績	—	—	—										
	22	⑧ ⑨ ⑪ ⑫	門司港地域複合公共施設整備事業	都市マネジメント課	「北九州市公共施設マネジメント実行計画」に基づき、門司港地域及び大里地域において、公共施設の集約等の取り組みを進める。	門司港地域における複合公共施設の整備	目標	複合公共施設の整備の推進	複合公共施設の整備の推進	複合公共施設の整備の推進（R5年度整備予定）	122,160	81,500	63,646	39,000	順調	門司港地域では、検証業務及び補償物件調査を行った。計画の実現に向けた具体的な取組が進んでいるため、「順調」と判断。				
							実績	複合公共施設の整備の推進	複合公共施設の整備の推進	達成率										—

令和3年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度			R3年度			中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）		事業 評価
V-3-(2)-③ 近代化 遺産な どの文 化財の 活用	23	①	世界遺産維持 活用保全事業	総務 課	国や関係自治 体、所有者等との 連携のもと、遺産 価値の保全につと める。	登録資産の保全	現状把 握のた めの調 査継続	目標 ユネスコへ の報告書作 成	ユネスコへ の報告書作 成	ユネス コへの 報告書 作成 （毎年 度）	25,601	29,391	27,445	5,800	順調	世界遺産登録資産について 年次報告書を作成した。わっ しょい百万夏まつり及び起業 祭などのイベントは新型コロナ ウイルス感染症の感染拡大 の影響を受けて中止となっ たが、井筒屋及びイオン内のイ ベントスペースにコロナ禍に おいても実施可能なブースを 出展するなど世界遺産の価値 の理解増進を図ることができ たため「順調」と判断。	順調	世界遺産登録資産の保全 を行うとともに、関係機関 と連携して世界遺産の理解 増進・情報発信の取組を進 め、文化の保存・継承と賑 わいづくりの資源としての 魅力向上を図る。
	まつり起業祭等、 地元の祭り等に出 展	2件 (R1年 度)	目標 2 件	実績 2 件	2 件	2 件	2件 (毎年 度)	達成率 100.0 %	100.0 %									
	24	①	世界遺産集客 にぎわい創造 事業	総務 課	旧本事務所見学 バスツアーを実施 するとともに、バ スツアーにおける ガイドの充実を図 る。	バスツアーの参加 者数	64人	目標 180 人	160 人	180人 (R4年 度)	8,569	3,000	500	5,800	遅れ	新型コロナウイルス感染症 の感染拡大防止の観点からバ スツアーを実施できなかった ため「遅れ」と判断。	遅れ	現在の社会情勢に応じたバ スツアーの実施や、世界遺産 の更なる魅力発信に努めるこ とにより文化財の活用を図る 必要がある。
							実績 0 人	0 人	0 人									
VII-1- (1)-① 「東ア ジア経 済交流 推進機 構」事 業の推 進	25	⑧ ⑯	東アジア（環 黄海）経済交 流推進機構推 進事業	国際 政策 課	平成16年11月に 設立した「東アジ ア経済交流推進機 構（以下「機 構」）」の共同事 務局として、会員 都市との連絡調 整、各会議の窓口 調整や開催支援を 行うとともに、機 構活動の管理運営 にあたる。	会員都市間ネット ワークの活用によ る共同プロジェクト の件数	4件 (H26年 度)	目標 3 件	2 件	4件以上 (毎年 度)	0	5,290	0	11,050	順調	機構活動がより活性化する よう、部会活動の見直しにつ いて各都市のニーズ把握や意 見聴取のためオンラインを中 心に活発に会議を行ったため 「順調」と判断。	順調	【評価理由】 機構改革についての協議を オンライン会議等で活発に実 施し、方向性を示せたため 「順調」と判断。  【課題】 機構改革の方向性に沿い、 各都市のニーズを反映した形 で機構改革を進める必要があ る。
						東アジア経済交流 推進機構における 会議数	24件 (H26～ H30年 度)	目標 4 件	4 件									

令和3年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性							
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度			R3年度			中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）		事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題			
VII-1-(1)-② 都市間 交流・ 連携の 推進	26	17	国際交流事業	国際 政策 課	姉妹・友好都市を中心とした海外諸都市との様々な分野での交流推進を図るため、訪問団の受入れや本市からの訪問団派遣等の交流事業を行う。	姉妹・友好都市を中心とした海外諸都市との交流事業参加者延べ人数	343人 (H26年度)	目標 330 人	実績 229 人	達成率 69.4 %	330 人	300 人	90.9 %	330人以上 (毎年度)	1,195	10,499	2,457	14,950	順調	海外との往来が困難な中、オンラインツールの活用など実施方法を工夫しながら事業を実施し、多くの参加者を得たため「順調」と判断。				
	27	17	ASEAN新都市 間連携促進事 業	国際 政策 課	成長するアジアの活力を本市に取り込むため、姉妹都市であるベトナム・ハイフォン市やカンボジア・プノンペン都などアセアン諸都市との交流事業を実施する。	アセアン諸国などアジアの新興国との交流事業参加者延べ人数	—	目標 /	実績 /	達成率 /	50 人	19 人	38.0 %	100人 (毎年度)	96	4,399	880	7,955	遅れ	海外との往来が困難な中、駐日外国公館向けの事業や、ハイフォン市との交流事業を実施したが、目標未達のため「遅れ」と判断。	【評価理由】 アセアン諸国との交流に遅れがあるものの、駐日外国公館向け各種SNS媒体を活用した戦略的な情報発信やオンラインツールを活用した交流事業など実施可能な形態で事業を進めることで全体としては目標を概ね達成しており、総合的に「順調」と判断。	【課題】 アセアン諸国との交流について、オンラインツールを活用するとともに、往来再開時にはリアルでの交流・連携を強化する。	姉妹・友好都市をはじめ、アセアン地域やオセアニア等、様々な国・地域との交流・連携強化に引き続き取り組む。	
						カンボジア及びアセアン新規交流都市との交流事業参加者延べ人数	—	目標 20 人	実績 14 人	達成率 70.0 %	20人以上 (毎年度)													
						各種SNSによる発信件数	—	目標 /	実績 /	達成率 /	288 件	358 件	124.3 %	864件 (R5年度)										
						各種SNSの閲覧件数	—	目標 /	実績 /	達成率 /	15,000 件	7,386,517 件	49,243.4 %	45,000件 (R5年度)										
	28	17	海外とのネットワーク強化事業	国際 政策 課	海外での本市の知名度向上、及び海外各都市とのネットワーク強化を図るため、より効果的で戦略的な情報発信、シティプロモーションを実施する。	各種SNSの閲覧件数	—	目標 /	実績 /	達成率 /	15,000 件	7,386,517 件	49,243.4 %	45,000件 (R5年度)	—	1,500	711	3,075	大変 順調	各種SNS媒体の特徴に応じて戦略的な情報発信を実施したため、目標値（閲覧件数）を大幅に上回り、「大変順調」と判断。				

令和3年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善														
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	事業 評価	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性						
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度			R3年度				中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）		評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題			
VII-1-(2)-② 文化・スポーツ交流の拡大	29	⑩	国際交流事業	国際政策課	姉妹・友好都市を中心とした海外諸都市との様々な分野での交流推進を図るため、訪問団の受入れや本市からの訪問団派遣等の交流事業を行う。	姉妹・友好都市を中心とした海外諸都市との交流事業参加者延べ人数	343人 (H26年度)	目標 330 人	実績 229 人	達成率 69.4 %	330 人	300 人	90.9 %	330人以上 (毎年度)	1,195	10,499	2,457	14,950	順調	海外との往来が困難な中、オンラインツールの活用など実施方法を工夫しながら事業を実施し、多くの参加者を得たため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 コロナ禍が続いたが、オンラインツール等を使って交流が実施できたため「順調」と判断。  【課題】 コロナ後の国際交流について、オンラインツール等も取り入れながら、双方に意義のある交流を進める。	行政間交流や文化交流の枠を超え、姉妹・友好都市と本市の双方にメリットとなる分野について情報交換をしながら、引き続き交流を行っていく。	
VII-2-(2)-② 海外の経済事務所の活用	30	⑩	中国ビジネスサポート拠点整備事業	国際政策課	駐中国北九州市経済事務所を設置・運営し、地元企業のビジネスサポートや進出支援を行うとともに、本市と中国の都市とのネットワークを形成・強化する。	海外事務所の本市地域企業への貢献度	—	目標 80 %	実績 89.4 %	達成率 111.8 %	80 %	91.6 %	114.5 %	R3年度の状況により設定	31,928	41,717	33,787	3,075	順調	昨年度に引き続き、中国に訪問する市内企業は減少したが、市内企業と中国企業との連絡調整や情報提供を実施するなど、貢献度の指標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 コロナ禍においても、昨年度の実績を上回っているため「順調」と判断。  【課題】 中国政府がゼロコロナ政策を推進する中、市内企業に対し、今後の海外事務所の存在の優位性を示すことが重要となる。	市内企業のニーズに合った中国国内の情報提供等ができるように、中国でのネットワーク強化や中国の経済動向の情報収集などを引き続き行っていく。	
VII-2-(3)-② 国際都市にふさわしいまちづくり	31	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生の推進	国際政策課	日本人市民に対して、多文化共生に関する意識啓発や国際交流の機会や場の提供を行うことで、外国人を受け入れる地域づくりを目指すとともに、すべての市民が安心して暮らし、自己の能力を發揮できる「多文化共生先進都市」としてのまちづくりを推進する。	市民の「多文化共生」という言葉の認知度	51.8% (H29年度)	目標 53.0 %	実績 60.6 %	達成率 114.3 %	53.0 %	54.0 %	110.9 %	62% (R6年度)	42,241	42,065	39,840	3,075	順調	外国人市民を対象とした事業の後援をはじめ、学生への講義、多文化共生意識醸成番組の放送を実施するなど、外国人市民と日本人市民の相互理解の促進に努めている。また、「多文化共生」という言葉の認知度についても目標値を達成しているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 多文化共生の意識啓発に関する事業の実施等により成果目標を達成しており、国際都市として求められる多文化共生意識の醸成に寄与していると考えられることから、「順調」と判断。  【課題】 外国人市民と日本人市民の相互理解を進めるためには、地域において顔の見える関係を築くことが必要であり、その構築に向けた取組が課題となる。	多文化共生の理解者の広がりや地域づくりの担い手育成につなげるため、今後も外国人市民のニーズを把握し、必要な事業を実施する。	
								外国人市民が安心して生活できるための情報提供や相談に多言語で一元的に対応する「北九州市多文化共生ワンストップインフォメーションセンター」の運営を行う。	外国人市民の生活環境の向上（多文化共生の現状調査で暮らしやすいと回答）	79.7% (H26年度)	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	達成率 —	単年度目標 設定なし										—
	32	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生ワンストップインフォメーションセンター関連事業	国際政策課																				

令和3年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善															
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度		中期 目標	予算額 （千円）		決算額 （千円）	事業 評価	評価の理由	
VII-3-(1)-① 県内周辺市町村との 広域連携推進	33	① ⑰	広域行政推進 事業	総務 課	<p>国の進める「連携中枢都市圏構想」に基づき、近隣17市町と連携中枢都市圏「北九州都市圏」を形成した。圏域の成長戦略として策定した「都市圏ビジョン」の推進を図る。</p> <p>また、下関市との連携については、県境を越えて両市の経済成長・文化交流に繋がる取組を行う。</p>	「連携中枢都市圏ビジョン」掲載の事業のうち、事業を実施した割合（一部実施含む）	69% (H28年度)	目標 90 % 実績 94 % 達成率 104.4 %	90% (R2年度)	—	4,413	2,380	13,300	順調	下関市との連携について、関門地域行政連絡会議は、定期的に協議・検討を行っていることから「順調」と判断。	【評価理由】 下関市との連携について、関門地域行政連絡会議は、定期的に協議・検討を行っている。 また、「北九州都市圏」のブランディング、プロモーション事業について、新型コロナウイルス感染症の影響で首都圏でのプロモーション事業は、オンライン等を活用した事業を行った。また、HPによる情報発信や福岡都市圏におけるイベント開催などプロモーションを行ったため、「順調」と判断。	今後も近隣都市との連携を一層強化していく。
						本市と下関市両市の企画部門等で会議を開催し、両市の経済成長に繋がる取り組みについて協議・検討	—	目標 関門地域の活性化に資する連携会議等での取組の協議・検討 実績 関門地域の活性化に資する連携会議等での取組の協議・検討 達成率 —	関門地域連携推進協議会とそれに伴う両市企画部門等の開催						順調	【課題】 今後も周辺市町との連携を一層強化していく必要がある。	
	34	⑧ ⑰	北九州都市圏 域連携事業	総務 課	<p>本市を含めた18市町で形成された、連携中枢都市圏「北九州都市圏」のブランディング、プロモーション事業を行う。</p>	北九州都市圏域内の宿泊者数	177.4万人 (H27年)	目標 179.0 万人 実績 122.0 万人 達成率 68.2 %	現観光振興プラン更新時に設定 集計中	3,189	4,000	1,977	17,400	やや遅れ	令和3年次実績は集計中であるが、令和2年次の目標を参考にすると、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標を下回る見込みであり「やや遅れ」と判断。 なお、事業について、新型コロナウイルス感染症の影響で首都圏でのプロモーション事業は、オンライン等を活用した事業を行った。また、HPによる情報発信や福岡都市圏におけるイベント開催などプロモーションを行った。		
					北九州都市圏域内への観光客数	3,640万人 (H27年)	目標 3,665 万人 実績 1,734 万人 達成率 47.3 %	3,673万人 (R2年)									

令和3年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善															
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度		中期 目標	予算額 （千円）		決算額 （千円）	事業 評価	評価の理由	
VII-3- (1)-② 近隣主要都市との都市間連携	35	⑪ ⑰	広域行政推進 事業	総務課	<p>国の進める「連携中枢都市圏構想」に基づき、近隣17市町と連携中枢都市圏「北九州都市圏域」を形成した。圏域の成長戦略として策定した「都市圏ビジョン」の推進を図る。</p> <p>また、下関市との連携については、県境を越えて両市の経済成長・文化交流に繋がる取組を行う。</p> <p>本市と下関市両市の企画部門等で会議を開催し、両市の経済成長に繋がる取り組みについて協議・検討</p>	「連携中枢都市圏ビジョン」掲載の事業のうち、事業を実施した割合（一部実施含む）	69% (H28年度)	目標 90 % 実績 94 % 達成率 104.4 %	90% (R2年度)	—	4,413	2,380	13,300	順調	下関市との連携について、関門地域行政連絡会議は、定期的に協議・検討を行っていることから「順調」と判断。	【評価理由】 下関市との連携について、関門地域連携推進協議会及び担当部門会議は、定期的に協議・検討を行っていることから「順調」と判断。  【課題】 今後も近隣都市との連携を一層強化していく必要がある。	今後もより一層、周辺市町との連携を強化していく。
	36	⑫ ⑰	関門連携推進 事業	総務課	<p>関門地域魅力向上事業を発展させた形で、新しい生活様式が定着した「Afterコロナ期」を見据え、国内外からの観光客誘致を促進するため、関門エリアの魅力ブラッシュアップし、受入れ態勢のさらなる強化を図る事業を実施する。</p>	行政間における関門連携事業数	40事業	目標 40 事業 実績 40 事業 達成率 100.0 %	40事業 (毎年度)	—	3,000	0	20,750	順調	下関市との行政間における関門連携事業について、担当部門において各事業の検討及び推進が行われていることから「順調」と判断。		

令和3年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度				R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度		R3年度		中期 目標		決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価		評価の理由	局施策 評価
VII-3-(2)-② 九州各 地域な どとの 連携	37	⑪ ⑰	広域行政推進 事業	総務 課	【西九州軸連携】 九州新幹線沿線 自治体（鹿児島 市、熊本市、福岡 市）との「四都市 連携」と福岡県内 の政令市同士とし て共同施策を進め る福岡市との「福 北連携」を核とし た広域連携に加え て、鹿児島県南九 州市との都市間交 流の推進により、 九州の一体的な発 展のため、西九州 軸の広域連携の強 化を図る。  【東九州軸連携】 東九州軸では東 九州自動車道全線 開通を見据え、京 築地域や大分・宮 崎などの都市との 連携構築に取り組 む。	九州地域などにお ける交流・連携都 市数（累計）	26都市 (H28年 度)	目標	27	都市	27都市 (毎年 度)	2,933	4,413	2,380	3,075	大変 順調	新型コロナウイルス感染症 の影響により交流・連携事業 の形式を一部変更したが、積 極的に行っており、「大変順 調」と判断。	順調	【評価理由】 九州地域などにおける交 流・連携都市数の維持、連携 事業の実施などから「順調」 と判断。  【課題】 新型コロナウイルス感染症 を踏まえた交流・連携事業に 取り組んでいく必要がある。	今後も交流・連携の枠組 みを維持・継続し、九州の 各地域との連携を強化して いく。
								実績	27	都市										
								達成率	100.0	%										
						連携事業の実施 (西九州軸での活 動)	1回 (H28年 度)	目標	1	回	1	回	1回 (毎年 度)							
								実績	1	回	1	回								
								達成率	100.0	%	100.0	%								
						連携事業の実施 (東九州軸での活 動)	1回 (H28年 度)	目標	1	回	1	回	1回 (毎年 度)							
								実績	2	回	2	回								
								達成率	200.0	%	200.0	%								
						四都市間にて市民 割引料金を適用す る市施設数（動物 園、美術館、博物 館など）	52施設	目標			52	施設	52施設 (毎年 度)							
								実績			52	施設								
								達成率			100.0	%								